

平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- (1) 内容豊かな授業の創造に取り組み、自ら学ぶ意欲を育てる。
- (2) 校種間連携を推進するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- (3) 基本的な生活習慣の確立に取り組む。

学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	2.5	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
数学、英語、国語の習熟度に応じた授業を定着させるとともに、毎日1時間程度の宿題を与えその点検をおこなう。授業改善アドバイザーを招聘し、若手教員を中心に質の高い授業の展開を図る。また、特別支援教育の充実に向け、特別支援コーディネーターを中心とした、個に応じた情報交換と全教職員の関わりを重視する。	1時間程度の宿題を与えるが、全く手を付けない生徒への取り組みが出来ていない。放課後学習(チャレンジスクール)を啓発し教師も関わる事により内容が充実してきている。 特別支援教育において、支援担任と保護者の共通理解が進深まっている。	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
オープンスクールや土曜参観を利用して、副読本を用いて道徳の授業を公開し道徳への意識を高める。また、問題行動を繰り返し起こす生徒に対して、教職員が関わり共通理解することにより問題行動を未然に防ぐ。教育相談を充実するために、今以上にスクールカウンセラー、訪問指導員、保護者との意見交換を行うことにより、不登校生徒を一人でも少なくしていきたい。進路指導においては、1年生より計画的に取り組み、2年生でのトライやる・ウィークで職業間や社会的自立に必要な能力を育成し、3年生では将来を見据えた進路指導を行う。	問題行動を繰り返す生徒への今以上の個に応じた指導方法の確立とともにその保護者との連携が必要である。 学年が進級する毎に、不登校生徒への支援が十分におこなえていない。 トライやる・ウィークでの事前指導の取り組みについて学活や総合の時間などでの指導が不足が気になる。	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3
取組とその成果	課題と改善策		
学校弁当の充実と、家庭科の授業でお弁当づくりなどを行うことにより、食についての意識の高揚に努める。また、体育科において、体づくり運動(体ほぐし、体力を高める運動)を各領域で積極的におこなわせる。部活動においては、多種多様のクラブ活動を実施することにより運動に親しむ習慣を身に付けさせる。	より一層の食育の充実と、体力・運動能力の向上を図っていきたい。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3
取組とその成果	課題と改善策		
防災マニュアルの確立と火災、津波を想定した防災訓練を、地域とともに実施し「自分の命は自分で守る」と言う、命の大切さを考えさせる。また、関係機関と連携し交通安全教室(自転車)を実施することにより、交通事故防止の規範意識を高める。	防災意識の高揚について今以上に地域との連携を図りたい。交通安全については、学校外での交通ルールへの規範意識が薄い。		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
各種の研修会に積極的に参加することにより教職員の資質の向上を図る。また、オープンスクール、土曜参観、地域での美化活動、生徒と教職員が一つになって行う「おはよう運動」「学校だより」「ホームページ」の配信等を通じて、学校の様子を地域に知ってもらう事により、今以上に地域から愛され、信頼される開かれた学校づくりを推進していく。	業務改善を積極的に取り入れる中で、研修などに参加する時間を生み出していきたいが生徒指導などで出席する事ができない現状である。また、地域から愛され信頼される学校づくりをめざして、新しいアイデアを教職員とともに創りあげたい。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
学校だより、ホームページや保護者会などで、教育目標を示したり働きかけたりする。また、各行事においては、学校目標を意識し取り組むことにより、保護者や地域の協力や理解を得る。	教職員のがんばりによって、少しずつではあるが教育目標の啓発が実ってきている。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2
取組とその成果	課題と改善策		
研究推進委員会を中心に、共通理解や方策を検討することにより、職員の協働体制の意識が高まった。また、基礎基本を定着させ、わかる授業を展開するため研修会に参加したり校内での公開授業を行う。	若い教師の授業力の向上と、研修推進を中心とした充実した授業研究を推進していく必要がある。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		